瀬戸内海国立公園の近代要塞遺跡

西 田 正 憲*

Modern Fortress Remains in the Setonaikai National Park

Masanori NISHIDA

摘要：瀬戸内海国立公園には明治大正時代に築かれた近代の要塞が数ヶ所に渡って残っている。紀淡海峡、芸予諸島、広島湾口、関門海峡、豊予海峡と国立公園の優れた風景地に、同じような構造をもつ堅牢な砲台跡や煉瓦造りの兵舎跡を見ることができる。要塞遺跡はそれ自体自然と一体となった明治の洋風建築として情趣あるものであるが、さらに一帯は、瀬戸内海の典型的な瀬戸景観などを眺める優れた展望地として、国立公園の重要な利用拠点になっている。瀬戸内海国立公園の近代要塞遺跡とはそもそも何かその概要を体系的に明らかにするとともに、この要塞跡地が瀬戸内海国立公園の利用拠点をいかに形成してきたかその経緯を明らかにするものである。

1. はじめに

瀬戸内海国立公園には古代の山城、中世の水軍の山城や海城、江戸幕末期の台場（砲台）、そして明治大正の要塞と、築城関係の遺跡が数多く残っている。

特に明治大正の近代要塞遺跡は瀬戸内海国立公園の優れた展望地に位置している。しかも、これらの土地は環境庁所管地か、県市有地等となっており、公園計画の集団施設地区や単独施設地区として例外なく国立公園の重要な利用拠点となっている。このうち一部は加太国民休暇村と大久野島国民休暇村という環境庁が主導的に整備する特別集団施設地区となっている。

要塞とは防衛のために要害の地に築いた砦であるが、明治時代から大正時代に建設された近代の要塞は、沿岸防衛のため、展望のきく沿岸や島嶼のかなり広い敷地に保塁、砲台を堅牢に築き、カノン砲、榴弾砲といった近代火炮を備えたものであった。施設は、保塁、砲台の他、司令所、将校宿泊所、兵舎、弾薬庫、発電所、電灯所、繋船場等の防御営造物と呼ばれる一連の付属施設が一体となっていた。（火炮は移動が激しく固定していなかった。）

この近代要塞遺跡は文化財として評価されてはいないが、その兵舎などは堅牢な煉瓦造りで、明治の洋風建築を偲ばせる情趣のあるものであり、国立公園においても、自然と一体となった人文景観として評価できるものである。西洋の城砦のような連想を引き起こすその保塁に立つと、眼前に瀬戸内海の多島海が広がり、足下に瀬戸の潮が滔々と流れる。近代要塞遺跡は優れた展望地点であると同時に風景を創出する優れた装置でもある。この近

代要塞遺跡とは何か、そして何故国立公園の利用拠点を形成したか等について以下明らかにしたい。

2. 近代要塞

1872年明治新政府は軍制の指導をおおぐためフランス陸軍士官マルクリーを招へい、翌年彼は日本の海岸防御法案を作成した。これを引継ぎ1874年からフランス陸軍士官ミュニエーらの指導のもと日本の陸軍士官もまじえ、陸軍は湾口要塞、海峡要塞について調査研究し、1875年には、国内の防御要地として東京湾、紀淡海峡、関門海峡、豊予海峡、鳴門海峡を選び、以後も検討を続けた。近代要塞の胎動であった。

この結果、1880年東京湾の観音崎砲台が建設され、その後も東京湾には年を追って砲台が建設された。わが国の近代要塞の誕生であった。東京湾に引続き、1887年に対馬、下関、1889年に由良、と要塞の建設が進められた。当時は清国北洋艦隊の脅威から日本周辺は緊迫した状況にあった。1886年陸軍は臨時砲台建築部を創設し、本格的に要塞建設を進め、沿岸防備の基幹を整えたのである。

国際情勢はますます緊張し、1894年の日清戦争、1904年の日露戦争へと発展、わが国は軍備増強へと邁進した。

国内も、日清戦争が勃発するや、危機感から、要塞建設が一気に進展し、1897年には広島湾、芸予、佐世保、舞鶴、1898年には長崎、函館と要塞建設が進められた。

この間、1895年には要塞司令部条例の発布、1897年には陸軍築城部の創設、1899年には要塞地帯法が公布されるなど、要塞建設に平行する形で、法令、組織が整備されていった。

*環境庁瀬戸内海国立公園管理事務所

これらの明治の要塞建設は、東京湾要塞の大正年間までの工事を除き、その他は1900年から1906年にかけて一応の完成をみた。明治の要塞建設期といえる。

しかし、その後、国際情勢の変化から要塞の配置について見直しを迫られ、また、戦争は火力と機動力こそが重要となり、特に1914年の第1次世界大戦で戦闘機が現れるにおよんで、要塞の軍事的価値は根本的に再検討が加えられることとなり、1919年から1923年にかけて、朝鮮海峡、太平洋方面、津軽海峡、豊予海峡における要塞の新設と、広島湾、芸予、下関東面の要塞の廃止等が決定された。この結果、1921年には豊予要塞が建設され、一方、1924年には芸予要塞が廃止され、1926年には広島湾要塞が廃止された。大正の要塞整理期といえる。

要塞は、この後も国際情勢、戦況、兵器の変化等に対応して、1933年、1936年と修正が加えられるが、それは主に砲台の増設や火砲の大型化等の改造であった。そして、第2次世界大戦終了をもって、この近代要塞も約65年の歴史の幕を閉じることとなった。

なお、1899年の要塞地帯法とは、国防のために建設した諸般の防御营造物の周囲の区域を、陸地と海面とを問わず、要塞地帯と指定し、防御营造物から250間(450m)までを第一区、750間(1,350m)までを第二区、2,250間(4,050m)までを第三区と区分し、区分に応じ種々の禁止制限と罰則を設けるとともに、さらに、要塞地帯周辺の3,500間(6,300m)の区域においても、測量、撮影、模写、録取を制限したものであった。

3. 瀬戸内海の近代要塞

瀬戸内海の要塞は、明治の要塞建設期におけるものが下関要塞、由良要塞、広島湾要塞、芸予要塞の4ヶ所、そして大正の要塞整理期におけるものが豊予要塞の1ヶ所、各々建設された。建設年次等は表-1のとおりである。建設年次は着工から一応の完成をみた年次を示すものであり、中には以後も改造を加えたものがあった。

この中で、広島湾要塞、芸予要塞は、内海要塞の軍事的価値が薄れたため、大正の要塞整理期にはいち早く廃止された。その他は第2次世界大戦終了まで陸軍の管理下に置かれた。しかし、一部において高射砲陣地に転用された以外は、どの要塞も一度も砲火を交えることはなかった。以下各要塞について記す。(位置図等は図-1)

表-1 瀬戸内海の近代要塞

要塞名	位 置	建 設 年 次
下 関	関門海峡	1887~1900 (明20~33)
由 良	紀淡・鳴門海峡	1889~1905 (明22~38)
広島湾	広島湾口	1897~1903 (明30~36)
芸 予	芸予諸島	1897~1902 (明30~35)
豊 予	豊予海峡	1921~1930 (大10~昭5)

(1) 下関要塞

下関は西日本の重要な軍事拠点であった。日清日露戦争、さらにその後の昭和の戦争においても、下関は西日本の防衛拠点として、朝鮮海峡の要塞系の一環として、また、兵たん基地、軍隊の発着地として重要な役割を果たしてきた。

1873年以降、陸軍省は関門海峡の沿岸防備は急務と考えてきたが、清国北洋艦隊の脅威から他の要塞にさきかけて、1887年に関門要塞の建設に着手した。そして、建設は1900年まで続けられた。1895年に下関要塞司令部が発足、関門要塞は下関要塞と呼ばれることとなった。

山口県下関側の砲台は、向洋の兵舎・連兵場等の大隊施設を取り囲む形で、後田の千丈ヶ原(戦場ヶ原)、棕野(一里山)、金比羅山、火の山、霊鷲山(竜司山)、彦島の老ノ山・筋山・田の首崎に建設された。

一方、下関側の砲台と一体的に整備された福岡県門司側の砲台は、古城山の門司城(門司関山城)跡、和布刈(門司)、矢筈山、笹尾山に建設された。また、小倉の田向山にも建設された。

これらの砲台のうち、下関側では火の山が、門司側では古城山と和布刈が国立公園となっている。

(2) 由良要塞

紀淡海峡は、1873年の海岸防御法案の中でも最重要の防御要地の一つとしてあげられていた。紀淡海峡は幕末期から台場が建設されるなど大阪神戸を守る重要な海峡であった。

後に由良要塞と呼ばれる紀淡海峡要塞は、兵庫県淡路島の由良地区、海峡部の友ヶ島地区、和歌山県の加太・深山地区からなり、1889年から1906年にかけて建設された。途中からは鳴門海峡の鳴門要塞も同じ管轄に置かれ一体的に建設された。由良要塞は1896年由良要塞司令部が発足、1899年由良要塞地帯指定、鳴門要塞は1897年建設着手、1900年鳴門要塞司令部が発足、1903年由良要塞司令部への編入となっている。

由良地区の砲台は生石の第1~5、高崎、成山、赤松、伊張に、友ヶ島地区の砲台は沖ノ島の第1~5、虎島に、加太・深山地区の砲台は加太、田倉崎、深山第1、2、男良谷(深山第3)、大川山、高森、佐瀬川、西ノ庄に各々建設された。鳴門地区の砲台は淡路島門崎の柿ヶ原、行者、笹山、門崎に建設された。

なお、由良要塞の生石の一部は1957年以来海上自衛隊淡路警備所が駐屯している。

これらの砲台のうち、由良地区の生石の第1~5、高崎、成山、友ヶ島地区のすべて、加太・深山地区の深山第1、2、男良谷(深山第3)、鳴門地区のすべてが国立公園となっている。

(3) 広島湾要塞

広島と呉は軍事上重要な都市であった。陸軍の第5師

団司令部、海軍の呉鎮守府があるなど軍事拠点であり、日清戦争時には大本営が置かれもした。これらの軍事拠点を守るために、1897年から1903年にかけて広島湾口に広島湾要塞が建設された。

1900年に広島湾要塞司令部が発足したが、広島湾要塞は1926年にはいち早く廃止されてしまう。軍備の近代化合理化の中で、要塞の意義が薄れるとともに、内海奥深くで防御にあたる意義もなくなったためである。瀬戸内海は外海に面する関門、紀淡、豊予の各海峡の要塞で守られることとなったのである。

広島湾要塞の砲台は、広島県の本土側の大室山、高島台、高島、倉橋島の早瀬第1、2、東能美島の大君低、西能美島の三高山、鶴原山、岸根鼻、大那沙美島、宮島の室浜、鷹の巣に建設された。

これらの砲台のうち、大那沙美島、宮島の室浜、鷹の巣が国立公園となっている。宮島の国立公園利用のための基幹的な公園車道は要塞建設の時に敷設された軍用道路が元となっている。

(4) 芸予要塞

広島湾の東部防衛の任を担うものとして、また日清戦争後の内海防衛の必要性から、1897年から1902年にかけて、芸予諸島の北の広島県大久野島と南の愛媛県小島に芸予要塞が建設された。

1900年に芸予要塞司令部が発足したが、広島湾要塞と同様、芸予要塞は1924年にはいち早く廃止されてしまう。理由は広島湾要塞と同じである。

大久野島の砲台は、1897年から1901年にかけて、北部、中央部、南部に建設され、対岸本土の冠崎にも建設された。

この大久野島はその後奇な運命をたどった。要塞廃

止直後の1927年陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所が建設着手され、1929年日本で唯一の毒ガス製造工場を誕生した。終戦を迎え、大久野島は1947年一旦日本政府に返還されたが、1950年朝鮮戦争勃発とともに、アメリカ軍の弾薬庫を置くため再び接收された。大久野島には、明治時代の日清日露戦争に係る要塞、昭和時代の戦争に係る毒ガス工場、そして朝鮮戦争に係るアメリカ軍の弾薬基地と三重の歴史の傷跡が刻み込まれている。そして1956年ようやく日本政府に返還された。

来島海峡に位置する小島の砲台は、1899年から1902年にかけて、北部、中部、南部に建設された。

小島の砲台は、廃止後の1926年に、海軍の航空機による空爆演習の標的にされ、1週間の空爆が行われたが、損傷は北部砲台の一角にとどまった。

大久野島、小島共に全島が国立公園となっている。

(5) 豊予要塞

明治の要塞建設期の下関、由良、広島湾、芸予の4ヶ所の要塞に遅れて、大正の要塞整理期におけるものとして豊予要塞が建設された。瀬戸内海の外側で防衛しようとする新たな考えであったが、距離が長い海峡部を制圧できる火砲が整ったからでもあった。

豊予要塞の砲台は、1921年から1930年にかけて、豊予海峡を挟んで、大分県側の関崎、海峡部にある高島の第1、2、愛媛県側の佐田岬の第1～4が建設されたが、この後も断続的に第2次世界大戦終了まで増設や改造が加えられ、高島の第3、佐田岬先端と御龍島(大島)の洞窟砲台が建設された。(なお、豊予要塞の一部として瀬戸内海の外の鶴見崎にも砲台が建設されたが、これは日豊海岸国定公園内となった。)1926年に豊予要塞司令部が発足している。

図-1 瀬戸内海国立公園の要塞位置図及び各要塞の国立公園区域(陸域)図

表－２ 明治時代（1904年当時）の全国の要塞と瀬戸内海国立公園の関係等

		(土地移管先)	(国立公園の公園計画(利用))
明治の 全国の要塞	函館要塞		
	東京湾要塞		
	舞鶴要塞		
	由良要塞	深山	大蔵省 — 瀬戸内海国立公園集団施設地区
		友ヶ島(沖ノ島)	後に厚生省 — 国民休暇村
			加太町払下げ — 瀬戸内海国立公園集団施設地区
			後に宿舍・園地・野営場に変更
	広島湾要塞	成山・高崎	大蔵省 — 瀬戸内海国立公園集団施設地区
			後に厚生省
		生石	洲本市払下げ — 瀬戸内海国立公園集団施設地区
		鳴門	大蔵省(海上自衛隊)
	芸予要塞	宮島・大那沙美島	大蔵省南淡町等 — 瀬戸内海国立公園園地博物施設
		大久野島	不明 — 瀬戸内海国立公園
	下関要塞	— 毒ガス工場 — 朝鮮戦争弾薬庫 —	大蔵省 — 瀬戸内海国立公園集団施設地区
			後に厚生省
大正の要塞	豊予要塞	小島	波止浜町払下げ — 国民休暇村
			瀬戸内海国立公園集団施設地区
	佐田岬	火の山	都市公園 — 下関市無償借地
		古城山・和布刈	都市公園 — 瀬戸内海国立公園園地
	高島		門司市無償借地 — 瀬戸内海国立公園宿舎
	大正の要塞	大蔵省三崎町等	瀬戸内海国立公園園地・野営場
		大分県	瀬戸内海国立公園園地・野営場
	大正時代に新設された瀬戸内海の要塞		

これらのうち、高島が全島国立公園であり、佐田岬もすべてが国立公園となっている。

4. 国立公園への編入

瀬戸内海の近代要塞は、芸予要塞が1924年に、広島湾要塞が1926年に廃止されたが、その他の下関要塞、由良要塞、豊予要塞は1945年の第2次世界大戦終了まで陸軍の管轄下に置かれ、立ち入り禁止とされていた。

瀬戸内海国立公園は1934年に備讃瀬戸を中心として第1次指定され、その後、1950年に第2次指定、1956年に第3次指定として周辺に拡張されていった。要塞はこの拡張部分に位置していた。

日清日露戦争前後の明治の要塞建設期には全国に10ヶ所の要塞が建設されたが、このうち下関、由良、広島湾、芸予の4ヶ所が瀬戸内海に位置していた。大正昭和の要塞整理期を経て、瀬戸内海では、広島湾、芸予が廃止されたが、豊予が追加されて、3ヶ所が要塞として残った。

そして、各ヶ所の一部が第2次世界大戦終了後瀬戸内海国立公園に編入されていった。由良、芸予が1950年の第2次指定で、そして下関、広島湾、豊予が1956年の第3次指定で瀬戸内海国立公園に包み込まれていった。明治の要塞と瀬戸内海国立公園との関係は表－2のとおりである。

瀬戸内海国立公園は多島海、瀬戸といった景観を指定するとともに、これらの展望地を指定するものであった。近代要塞遺跡の多くが取り込まれたのは、要塞のある位置がこの選定要件にかなうものであったからに他ならない。要塞の立地と瀬戸内海国立公園の立地が、海峡部、好展望地点ということで一致していたのである。要塞跡地は瀬戸内海国立公園にとって核心部であった。また、

要塞跡地は国公有地であったので、国立公園に編入しやすかったともいえる。瀬戸内海国立公園は核心部の一部をこのような形で国公有地として残すこととなったのである。瀬戸内海国立公園の要塞跡地のうち、芸予要塞の小島は大正末に波止浜町有地になったが、その他の要塞は第2次世界大戦終了後それぞれ陸軍用地から国、県、市、町に移管または無償借地された。表－2のとおりである。ある意味では、陸軍が要塞地帯として強引に買収したからこそ、その後も国公有地として残ったといえる。

そして、好展望地が国公有地として残っていたからこそ、瀬戸内海国立公園の重要な利用拠点として位置づけられていったのである。

なお、下関要塞の火の山、古城山、和布刈は戦後いち早く都市公園に指定された。火の山は、下関市が1948年に都市公園の計画決定を行い、1958年以来国有地の無償借地による都市公園整備を進めている。古城山、和布刈も、当時の門司市(現北九州市)が1947年に都市公園の計画決定を行い、翌年国有地を無償借地、1950年から都市公園整備を進めている。火の山は「火の山公園」として周辺も含めて都市公園の広域公園となり、古城山、和布刈は「和布刈公園」として都市公園の風致公園となっている。そして、それぞれ1956年に国立公園に編入される。ここに特異な都市公園と自然公園の重複が生じた。(その他の下関要塞跡地もまた都市公園となっている。)

5. 集団施設地区等の成立

要塞跡地の国公有地は瀬戸内海国立公園にとって貴重な土地であった。国立公園は地域制の公園として多くの民有地から成るが、国立公園の利用のための公共施設を整備するためには国公有地が必要であった。もともと優

表－3 瀬戸内海国立公園の近代要塞遺跡の現状・沿革等

要塞名	場 所	残 存 す る 主 な 遺 跡	公園計画	土地(ha)	沿 革
下関要塞	火 の 山	砲座・監視所（または高射砲台座）・兵舎	2 特 園 地 休憩所	国 3 4.7 市 2.1	1948(昭23)都市公園計画決定 1956(昭31)瀬戸内海国立公園に編入 1958(昭33)下関市が国有地を無償借地
	古 城 山 和 布 刈	砲座・監視所（または高射砲台座）・兵舎 なし	2 特 宿 舎	国 2 6 市 1 6 民 1	1947(昭22)都市公園計画決定 1948(昭23)門司市が国有地を無償借地 1956(昭31)瀬戸内海国立公園に編入
由良要塞	深 山	第1砲台：砲座・兵舎・弾薬庫・（トンネル） 第2砲台：弾薬庫 男良谷（第3）砲台：不明	2 特 集 団	国 4 3.2 市 3.9	1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入 1963(昭38)国民休暇村に指定 1964(昭39)厚生省に所管換え
	友ヶ島 （沖ノ島）	第1砲台：砲座（破損）・兵舎 第2砲台：兵舎 第3砲台：兵舎・将校官舎・発電所・便所 第5砲台：砲座・便所 第4砲台・虎島砲台：不明	2 特 宿舎園地 野営場	市 1 3 0	1949(昭24)加太町（現和歌山市）に払い下げ 1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入 1956(昭31)南海電気鉄道線が全島借地
	成 山 高 崎	なし なし	2 特 集 団	国 2 2.7 民 3.2	1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入 1964(昭39)厚生省に所管換え及び寄付
	生 石	第1砲台：兵舎 第2・3・4砲台：不明 第5砲台：砲座一部	国 3 市 3 9.4	1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入 1958(昭33)海上自衛隊淡路警備所駐屯 1965(昭40)洲本市に払下げ	
	鳴 門	行者：砲座一部・弾薬庫・棧橋 柿ヶ原・笹山・門崎：不明	1・2 特 園地博物	国 不明 町 不明	1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入
	広島要塞 宮 島 等	不明	1・3 特・普	不 明	1956(昭31)瀬戸内海国立公園に編入
芸予要塞	大久野島	北部砲台：砲座・兵舎・（トンネル） 中央砲台：砲座・兵舎・井戸・浄化槽 南部砲台：砲座・兵舎 その他：棧橋・弾薬庫（破損）	2 特 集 団	国 7 1.0	1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入 1960(昭35)厚生省に所管換え 1961(昭36)国民休暇村に指定
	小 島	北部砲台：砲座（破損）・監視所・発電所・探照燈 中部砲台：司令台・砲座・兵舎・井戸・浄化槽・便所 南部砲台：砲座・兵舎・発電所 その他：探照燈等	2 特 集 団	市 3.6	1925(大15)波止浜町（現今治市）に払い下げ 1950(昭25)瀬戸内海国立公園に編入
豊予要塞	佐 田 岬	第1砲台：砲座・トーチカ・弾薬庫・探照灯 洞窟砲台 他不明	2 特 園地等	国 不明 町 不明	1956(昭31)瀬戸内海国立公園に編入
	高 島	砲座・弾薬庫・（トンネル）	1・2 特 園地等	県 1 0 8	1956(昭31)瀬戸内海国立公園に編入 1969(昭44)土地交換により大分県有地

(注) 公園計画の欄の略称は次のとおり。1 特: 第1種特別地域、2 特: 第2種特別地域、普: 普通地域、集団: 集団施設地区、博物: 博物展示施設

れた展望地であったこの要塞跡地は、格好の施設整備の国公有地として、公園利用のための専用地区に変貌していった。(もっとも、計画はしたものの、一部は交通の不便から、必ずしも順調な整備には至ってはいない。)

瀬戸内海国立公園の要塞跡地のうち、由良要塞の深山、友ヶ島、成山、生石、そして芸予要塞の大久野島、小島が瀬戸内海国立公園の集団施設地区となり、その他の要塞跡地も園地、宿舎、野営場、休憩所、博物展示施設の単独施設地区となっていた。国立公園の集団施設地区、単独施設地区とは、国立公園の利用のために施設を整備する地区であり、特に集団施設地区は一大利用拠点となる地区である。

由良要塞の深山と成山、芸予要塞の大久野島は戦後厚生省所管(現在は環境庁)の土地となった。そして、このうち深山と大久野島に、加太国民休暇村と大久野島国民休暇村が建設された。国民休暇村とは国立公園の利用拠点として理想的な集団施設地区をめざしたものである。陸軍用地としてまとまった土地が残っていたから国民休暇村になりやすかったといえる。成山は洲本市により国民宿舎、水泳場が整備され、民間により野営場も開設された。(現在は遊休化している。)

由良要塞のうち、友ヶ島の沖ノ島は和歌山市有地を借地している私鉄系の民間会社により園地、野営場が整備

され、生石は洲本市により園地が整備された。鳴門の柿ヶ原には兵庫県により博物展示施設が整備された。

芸予要塞のうち、小島は、大正末の要塞廃止直後即座に、当時の波止浜町(現今治市)が観光開発のために国から土地の払い下げを受けた。町は、保護と利用について国立公園行政の推進者田村剛林学博士の意見を聞き、海の公園として若干の施設整備を行った。(しかし、交通の不便から十全な利用はなされなかった。)

下関要塞の火の山、古城山、和布刈は戦後いち早く都市公園として決定され、都市公園の整備がなされたが、その後、国立公園としても休憩所、園地、国民宿舎が整備された。

豊予要塞のうち、高島は戦後佐賀関町が公園化と土地の無償払い下げを国に要望したが、国立公園に編入されたものの、土地は県有地に移管された。高島は大分県と佐賀関町により野営場が整備された。佐田岬は愛媛県と三崎町により園地と野営場が整備された。

6. 近代要塞遺跡の現状

近代要塞遺跡の残存状態にはばらつきがある。

友ヶ島(沖ノ島)、大久野島、小島は、一部が破損しているものの、ほぼ同程度に相当規模に残っている。これらは圧巻である。それぞれ3～5ヶ所の砲台からなり、

砲座、兵舎、弾薬庫、発電所等が残っている。それぞれ構造が酷似しているのが興味深い。同じ基本構造の設計図から建設されたものと推測される。ただ、友ヶ島の第2砲台と小島の北部砲台は一部が意識的に破壊されている。また、弾薬庫の屋根や、将校官舎の一部など、木造部分は朽ちてなくなっている。大部分が残ったのは、石造り、煉瓦造りであったからに他ならない。

火の山、深山、佐田岬、高島もある程度残っている。古城山、生石、鳴門はほんの一部が残っている。その他は全く残っていないか、不明である。残存する主な遺跡は表-3のとおりである。なお、表-3には、公園計画、土地所有、沿革もまとめて示した。

7. おわりに

明治大正時代の近代要塞遺跡は瀬戸内海国立公園に集中的に残っている。これは、瀬戸内海に多くの要塞が築かれたからであるが、それ以上に要塞の立地と瀬戸内海国立公園の立地が一致していたからであると指摘できる。

近代要塞に限らず、瀬戸内海国立公園に古代から近代にかけての築城関係の軍事遺跡が数多く残っているのも同様の理由による。軍事拠点は軍事上重要な海峡部や海域の展望地を立地としているが、瀬戸内海国立公園も海峡部のいわゆる瀬戸景観や多島海景観の展望地を立地としているからである。

近代要塞遺跡の保存状態は他の軍事遺跡に比べ比較的良好であるが、これは、より近い過去の遺跡であるのみならず、瀬戸内海では比較的近寄り難い自然地域に位置していたからであり、また、施設そのものが堅牢であったからである。中世の山城海城や近世の台場は開発の波にさらされ多くが消失している。

近代要塞遺跡が瀬戸内海国立公園に包含され、そして保存されていった理由を次のとおり整理できる。

- (i) 明治の全国の要塞10ヶ所のうち4ヶ所までもが瀬戸内海にあったこと。
- (ii) 近代要塞と瀬戸内海国立公園の立地が海峡部、好展望地と一致していたこと。
- (iii) 近代要塞遺跡は、その位置や地形から、到達性が悪く、開発が図り難かったこと。

(iv) 近代要塞は、近代の軍事施設であり、施設そのものが堅牢であったこと。

(v) 近代要塞は、終戦まで多くは陸軍の管轄下にあり、戦後も国公有地に移管されたこと。

そして、近代要塞遺跡は、優れた展望地であると同時に、まとまった国公有地として残ったからこそ、利用のための施設整備適地として、国立公園の集団施設地区、単独施設地区という利用計画が落とされたのである。こうして海峡部、好展望地に位置する瀬戸内海の近代要塞遺跡が、瀬戸内海国立公園の利用拠点に変貌していったのである。

なお、瀬戸内海国立公園に限らず他の国立公園においても、第2次世界大戦以前の軍事施設とその用地が利用施設に転用され利用拠点を形成してきた事例をみることができる（指宿国民休暇村、宇和海高茂岬園地等）。軍事施設等が道路、園地等に転用され、結果的に国立公園利用（公園事業）の促進に寄与してきたという側面を、各国立公園を比較して検討することは今後の課題である。

参考文献

- 1) 今治市教育委員会、今治史談会（1975）：小島砲台跡：今治史談昭和50年7月6日
- 2) 浄法寺朝美（1971）：日本築城史：原書房
- 3) 北九州市史編纂委員会（1987）：北九州市史：北九州市
- 4) 三崎町誌編集委員会（1985）：三崎町誌：三崎町
- 5) 鳴門市史編纂委員会（1982）：鳴門市史中巻：鳴門市
- 6) 佐賀関町史編集委員会（1970）：佐賀関町史：佐賀関町
- 7) 下関市市史編集委員会（1958）：下関市史：下関市
- 8) 篠原宏（1983）：陸軍創設史：リプロポート
- 9) 洲本市史編さん委員会（1974）：洲本市史：洲本市
- 10) 鈴木勤編（1972）：日本人の100年7：世界文化社
- 11) 武田英子（1987）：地図から消された島—大久野島毒ガス工場：ドメス出版
- 12) 和歌山県史編纂委員会（1975）：和歌山県史：和歌山県

Summary : There are some modern fortress remains of the Meiji and Taisho era in the Setonaikai National Park. There can be seen similar remains of firm batterys and brick soldier facilities at beautiful scenic places of the park in the Kii Channel the Geiyo Islands, the Hiroshima Bay, the Kanmon Straight, and the Bungo Channel.

These fortress places were designated as the National Park after the World War II, because these formed the tasteful landscapes and the important recreational centers of the park as excellent observatory points, and these lands were owned by the government and local governments. The paper shows what modern fortress remains were and why these places formed the recreational centers.